

# 森林利用ガイド事業の今後の取組方法について

山形森林管理署 平野真規

はじめに

当署ではこれまで、平成元年から継続的に森林利用ガイド事業を実施してきた。しかし、これらの取組について参加者が、どのように受け止めているのかについては、平成14年度にアンケートを行っただけであり、それ以降参加者からの評価を得ることなく実施してきた。このことを踏まえ、今回参加者の意識をアンケートで探り、今後の森林利用ガイド事業の参考にすることとした。

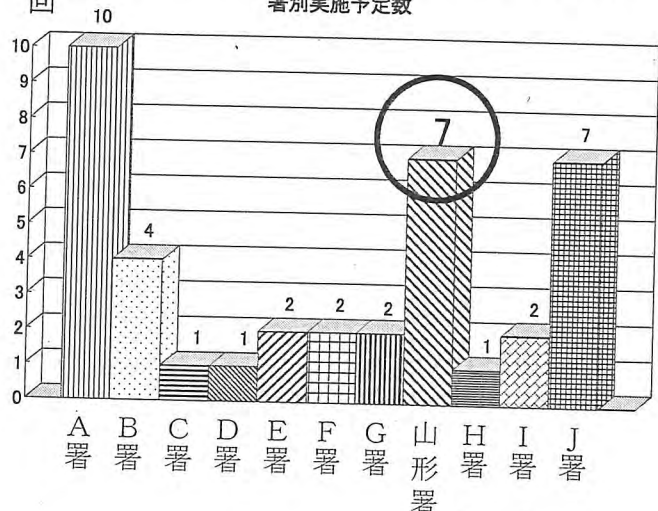
## 1 森林利用ガイド事業の現状

### (1) 森林利用ガイド事業の実施計画

東北森林管理局管内で予定されている森林利用ガイド事業は11の署・センターで計画されており、当署においては全7回を計画しており開催予定数では2番目に多い状況になっている。

(図-1)

図-1 平成18年度森林利用ガイド事業計画 署別実施予定数



出典：東北局HP

### (2) 森林利用ガイド事業の取組

当署における平成18年度森林利用ガイド事業の予定である。

今年度は、5月から月1回を目標に計画し3月を含め全7回とした。開催場所については新緑や高山植物の開花、紅葉時期等に合わせ、開催日時を計画している。(表-1)

表-1 平成18年度森林利用ガイド事業予定

イベント名	実施時期	参加者人数
経塚山・白禿山・百枚田を訪ねて	5月12日(金)	30人
蔵王中丸山の自然探勝	6月28日(水)	31人
孤高の名花「コマクサ」の観賞といろは沼・観松平の散策	7月13日(木)	雨天中止
夏の面白山を訪ねて	8月10日(木)	31人
初秋の山形神室を訪ねて	9月13日(水)	雨天中止
紅葉川渓谷の散策と紅葉観賞	10月20日(金)	25人
かんじきトレッキングと樹氷観賞	19年3月2日(金)	予定(30人)

(3) 森林利用ガイド事業の開催

当日の開催にあたっては、各回スタッフを5名で構成し、募集定員は30名としており、申込みは電話受付による先着順で行っている。受付日は開催日時の一ヶ月前に行っているが、受付開始日の午前中には定員に達するほどの申込みがある。また、参加して頂いた参加者に対し、後日、記念写真と礼状を送付している。

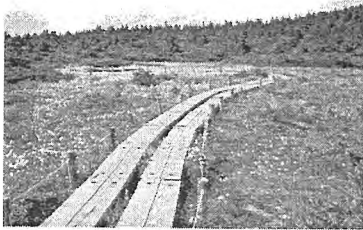
(4) 森林利用ガイド事業のパンフレット

イベント当日に配布しているパンフレット内容の一例として、森林利用ガイド事業を行っている経緯や、イベントの見どころと解説、当日の登山ルートやタイムスケジュール、コースの地図、植物の写真と解説を掲載している。パンフレットの大きさはA5版の小冊子で、各回16ページ程度としている。(図-2)

図-2 パンフレット

平成18年度 森林浴の集い

高山の名花「コマクサ」の観察と  
いろは沼・銀松平の散歩



ワタスが咲くいろは沼

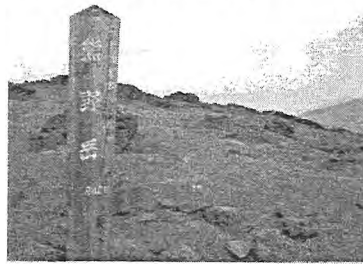
とき 平成18年7月13日(木)

ところ 地蔵尊～熊野岳～いろは沼・銀松平

山形森林管理署

森林浴の集いとは

「森林浴の集い」は、市民の皆さんに森林の中で自然と親しみ、遊び、学ぶ喜びをより味わうことができるよう、森林とのふれあいを推進するという趣旨のもと、山形森林管理署でできている森林ガイド事業です。山形森林管理署で管理している村山地方にある国有林7万7千haで毎年開催しています。平成18年度は今回を含め全7回予定しています。



熊野岳頂上

- ※ 総括責任者
- ※ インストラクター
- ※ 写真担当
- ※ サポート

産王の植物

コマクサ ケン科コマクサ属 *Dicentra peregrina*



他の植物が生息できないような環境に生えるため単独産生を伴うことが多い。他の植物とは混生しないため「高山の名花」と呼ばれ、産王を代表する高山植物。名前はつばみを横から見た形が馬(こま)の顔に見えることにちなむ。葉は、細かく裂け粉白を帯びる。7～9月薄紅色の花を茎の先にやや下向きに2～7輪つけ、花弁は4個で外側と内側に2個ずつつき、外側の花弁は先が反り返る。砂や礫が絶えず動く様なきびしい環境に生えるため、地上部からは嗅ぎ取れないほど、細くしなやかな根が地中深くもぐり込み広くのびている。

ムシトリスミレ タヌキモ科ムシトリスミレ属 *Pinguicula vulgaris*

湿った草地に生える多年草の食虫植物。葉は根生し、長さ1.5～4cm、幅1～2cmの長楕円形でややわらかく内側に巻く。表面に密生した腺毛と腺体から消化粘液を出して小さな虫を捕食する。花茎は高さ5～15cmスミレに似た花は青紫色で基部にとがった距がある。

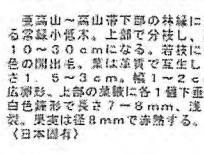


ヒナヅクラ サクラソウ科サクラソウ属 *Primula nipponica*



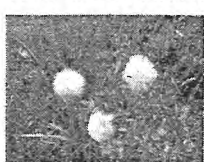
高山～高山部の雪田の融雪地や湿った草地に生える多年草。根生葉はやや肉質で、長さ2～4cm、幅0.5～1.5cmの楕円形、上半部に5～10個の葉芽があり、茎部は細く葉柄状。花茎は高さ7～15cmで2～8輪の白花をつける。花冠は直径約1cmで、5裂し、やや斜めに開く。裂片は2中裂する。(日本固有)

アカモノ ツツジ科シラタマノキ属 *Gaultheria ovalifolia* ssp. *adenotrich*



高山～高山帯下部の林縁に生える常緑小低木。上部で分枝し、高さ10～30cmになる。若枝に赤褐色の剛毛。葉は革質で互生し、長さ1.5～3cm、幅1～2cmの広卵形。上部の葉縁に各1個下垂し、白色鐘形で長さ7～9mm、径く5mm。果実は径8mmで赤熟する。(日本固有)

ワタスガ カヤツリグサ科ワタスガ属 *Eriophorum vaginatum*



高山～高山帯の高層湿原に群生する多年草。高さ30～50cmで、葉や茎を密生して株をつくる。根生葉は幅約1.5mmの線形な葉。葉は鞘状。小穂は茎の先に1輪につき、花穂は長さ1～2cmの狭卵形。鱗片は広披針形で灰褐色。花被片は糸状、花のあと長さ2～2.5cmにのびて線のような白い球形の果穂をつくり、花より目立つ。

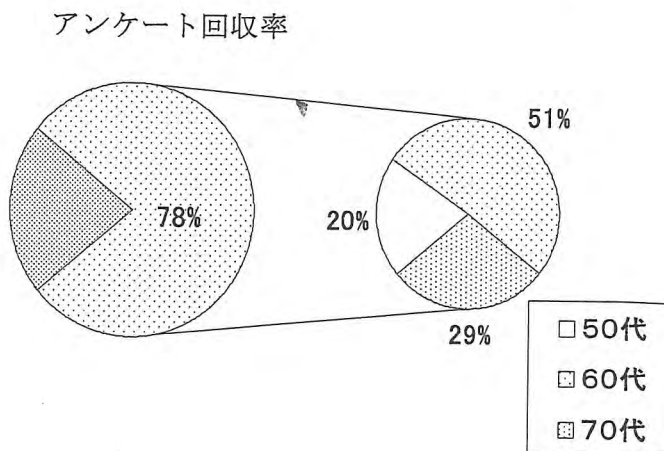
## 2 アンケート調査

### (1) アンケート回収率と年代構成

平成18年度森林利用ガイド事業に申込みを頂いた名簿を基に、94名を対象に行った結果、73名から回答があり回収率は78%になった。

また、回答者から年齢構成別で見ると、参加者の多くは60代と70代で構成されていることがわかった。(図-3)

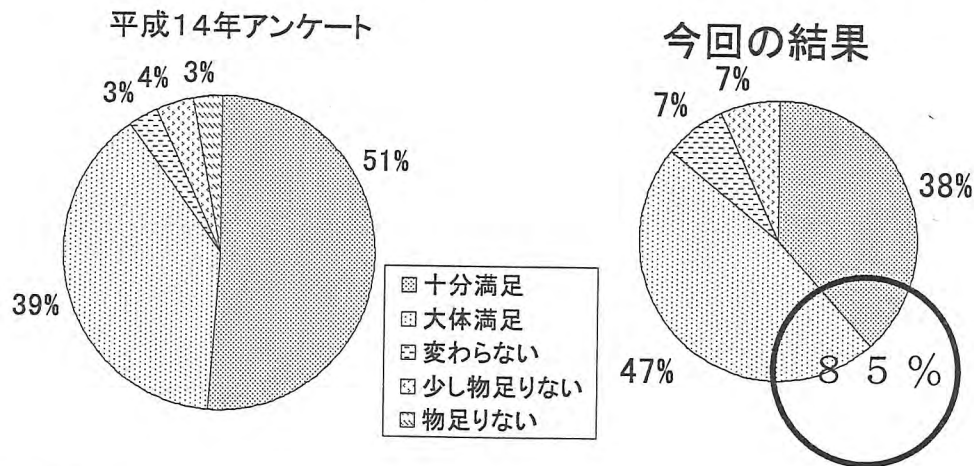
図-3 アンケート調査回収率



### (2) 参加者の評価

森林利用ガイド事業の評価として、「十分満足」「大体満足」が全体の85%を占める結果となり、参加者から多くの支持を得ていることがわかる。(図-4)

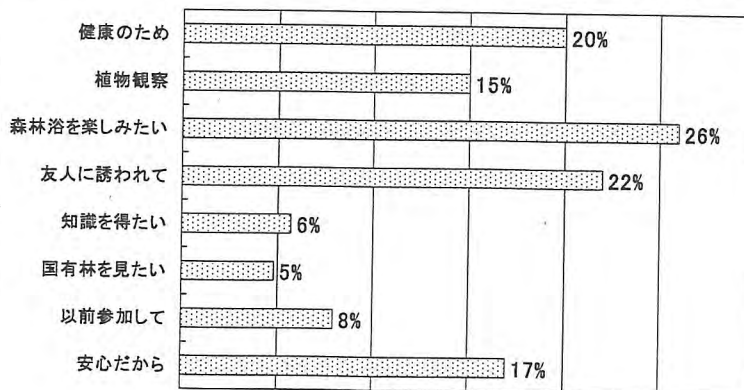
図-4 国有林以外の森林浴イベントと比べてどうでしたか



### (3) 参加理由

参加・申込みの理由として、「森林浴を楽しみたい」が26%と最も多く、次に「友人に誘われて」22%、「健康のため」20%、「安心だから」17%、「植物観察」15%との回答を得た。(図-5)

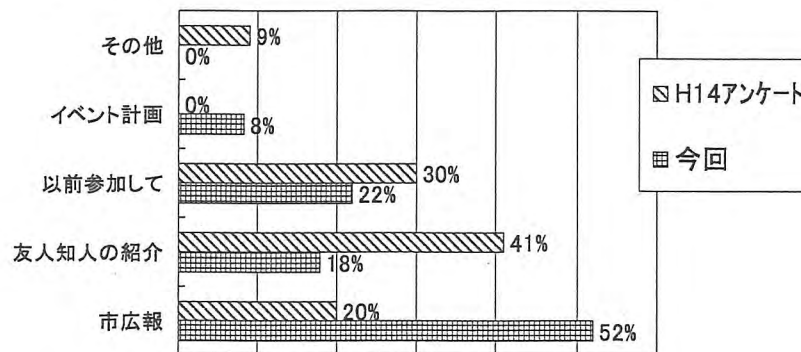
図-5 参加・申込をしようと思った理由はなんですか



(4) イベント情報

前回、平成14年度に行われたアンケートと比較した結果、「以前参加して」「友人知人の紹介」の項目で減少がみられるのに対し、「市広報で知った」が約2.5倍の増加がみられた。

図-6 どのようにしてイベントを知りましたか

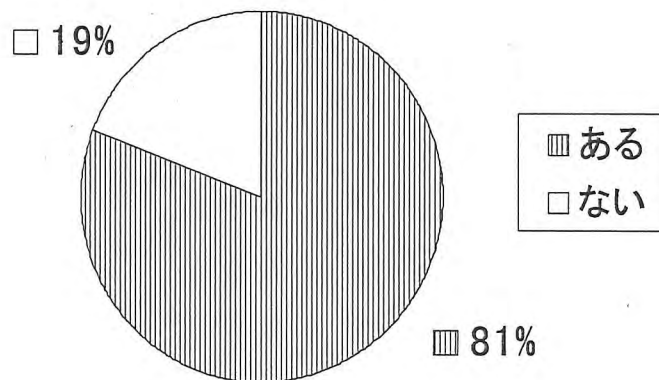


このことから、市広報を活用したイベント情報の提供方法については効果が現れている。(図-6)

(5) 参加者のリピーター率

回答者のうち、81%が過去に当署の森林利用ガイド事業に参加したことが「ある」と答え、参加者のリピーターの多いことがわかった。(図-7)

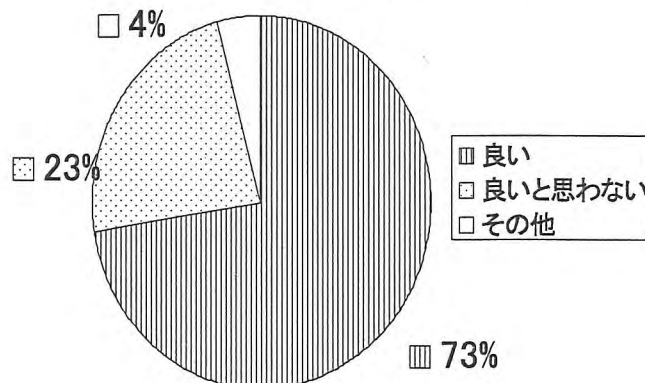
図-7 過去に山形署の森林利用ガイド事業に参加したことはありますか



(6) 申込方法

現在、行っている先着順による申込み方法については、73%が「良い」と回答し、参加者の多くは、現行の申込み方法については理解をしていることがわかった。(図-8)

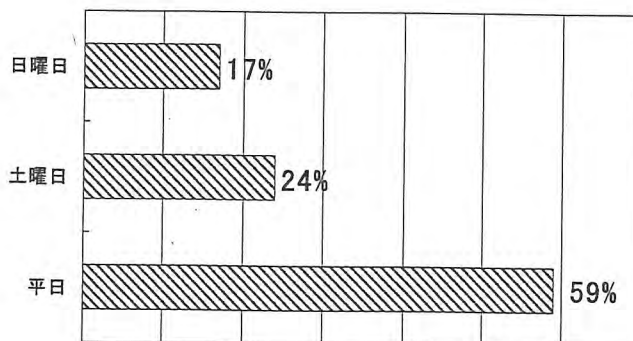
図-8 現在行っている先着順による申込み方法はどう思いますか



(7) 開催曜日

参加しやすい曜日については、「平日」59%、「土曜日」24%「日曜日」17%との回答を得た。このことから、60代・70代の比較的時間に余裕のある参加者が多いことから、平日を望む声が多く上げられたとみられる。(図-9)

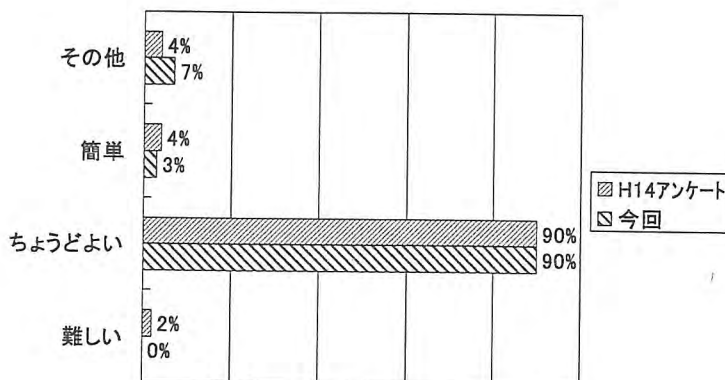
図-9 参加しやすいと思う曜日は



(8) パンフレットの評価

パンフレットの内容については、90%が「ちょうど良い」と答え、前回アンケートとの差がみられないことから、参加者が満足していることがわかった。(図-10)

図-10 パンフレットの内容はどうか

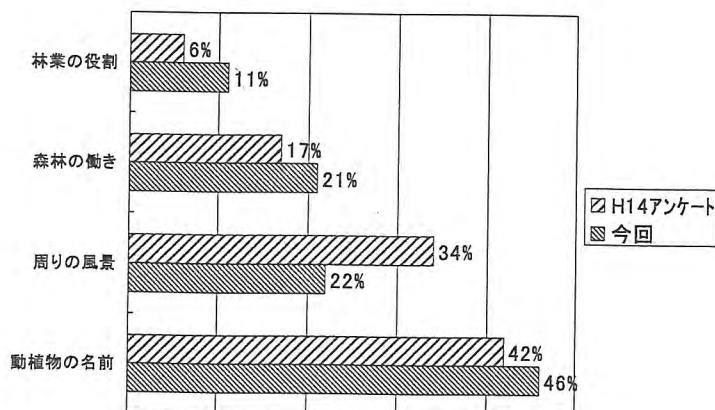


(9) インストラクターへの要望

参加者がインストラクターに対する要望として、「動植物の名前」46%、「周りの風景」22%、「森林の働き」21%、「林業の役割」11%との回答を得た。このことから、参加者の多くは動植物の解説を求めていることがわかった。

(図-11)

図-11 インストラクターにどのような説明をしてほしいですか

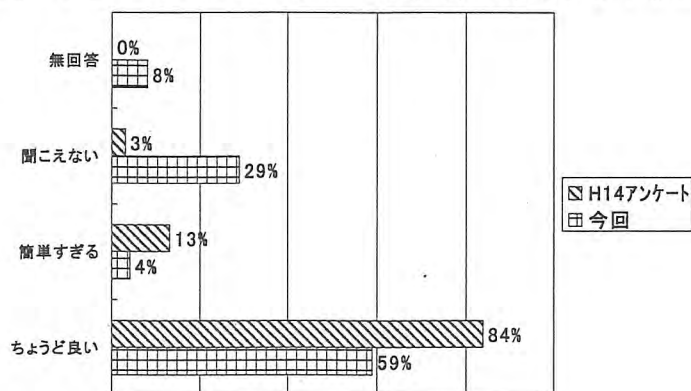




(10) インストラクターの説明

インストラクターの説明について、「ちょうど良い」59%「聞こえない」29%との回答を得た。前回アンケートと比べ、「聞こえない」が増加する結果となった。聞こえない理由として、1班15名で構成していることにより、登山道の狭い場所にあつては、列が

図-12 インストラクターの説明内容はどうですか



長くなり、後方に説明が聞き取りにくい状況が発生していると考えられる。

(11) アンケートのまとめ

アンケート結果から次の6項目について今後の参考にすることができた。

- ① 国有林以外の森林浴イベントと比べ80%以上が満足していた。
- ② 参加者の申込み動機は「森林浴を楽しみたい」が最も多かった。
- ③ イベント情報の入手先は市広報が最も多かった。
- ④ 参加者のリピーター率は81%と高かった。
- ⑤ 現行の先着順による申込み方法について「良い」が73%との評価であった。
- ⑥ インストラクターに対し、参加者は「動植物の解説」を求める要望が多かった。

3 今後の課題と対応

今後の課題と対応について次の2つをあげることにする。

(1) 新規申込者の拡大

アンケート結果を踏まえ、参加者のリピーター率が81%になっている現状から、新規申込者が参加しやすい体制づくりとして、各回の募集に新規申込者枠を設定し、新規参加者の拡大を図ることとする。

(2) インストラクターの養成

インストラクターに対する参加者の要望として、「動植物の解説」を望む声が多くあげられたこと、また、インストラクターの説明が聞こえにくい状況が発生している状況がみられること、の2つを踏まえ、無線音声機器を活用し、説明の聞こえにくい状況の解消に向けた取組や、1班15名体制の現行の取組を1班10名体制に変更するなど、職場内研修の充実や外部研修の受講に努め、インストラクターになれる職員を確保する。

おわりに

今回は参加者を対象としたアンケート結果から今後の課題について調査を行った。今後はそれらの課題を踏まえ、さらにより良い森林利用ガイド事業に取組み、広く国民に対し国有林のPRを行う有効な手段として努めていきたい。